

ねもと しょう 根本 正

青少年の健全育成につとめた政治家 那珂市



(『根本正の生涯』より転載)

嘉永4年(1851) - 昭和8年(1933)。那珂郡東木倉村〔那珂市〕生まれ。はじめは水戸藩の役人だったが、明治4年(1871)に上京し、人力車夫をしながら勉学に励む。その後、ヨーロッパの文化に影響を受け、新しい知識を得るためアメリカに渡り、小学校・中学校を経て、バーモント州立大学を卒業。在学中にキリスト教の実態に触れ、合理主義・独立不撓の精神を身につける。明治23年(1890)、政治家を志して帰国し、衆議院議員に二度立候補したが落選。三度目の挑戦で当選し、国民教育授業料全廃の建議、未成年者喫煙禁止法、未成年者飲酒禁止法、水郡線鉄道建設に関する建議などを成立させ、その政治家としての業績は高く評価されている。

根本正は、那珂郡東木倉村〔那珂市〕に生まれました。祖父は庄屋<村長>を務め、学問にも優れた能力を発揮した人で、正は7,8歳のころからこの祖父に読み書きの手ほどきを受けました。

13歳の時に水戸に出て、『大日本史』の編さんにあっていた彰考館総裁・豊田天功のもとで働きながら、一生懸命勉強しました。その後、水戸藩の下級役人となった正は、パリ万博に出席した徳川昭武(水戸藩第11代藩主)の家来が持ち帰った時計とマッチを見て、たいへん驚きました。

(よほど頭のいい人がつくったにちがいない。横文字を書く人たちだ。これからは横文字の勉強をしなければいけない。こんなすばらしい国に行ってみたい。)

と、正は決意します。16歳の時のことです。

明治となり、正は20歳になると、役人をやめ、勉強のために東京に行きます。しかし、東京に行くことを実家には知らせていなかったため、生活はたいへんでした。自炊しながら昼は勉学、夜は人力車夫となって働きました。

このころ正は、明治4年(1871)に刊行された『西国立志編』という書物を読み、感動します。西洋で努力して立派な人になり、社会のために尽くした人々の伝記です。

「努力すれば、報われる。」この言葉に正は勇気づけられました。その後、正は警察官となり、外国郵便制度ができると、外国郵便を扱う郵便局に雇われ、神戸と横浜で働き、多くの外国人と接し英語力を高めるとともに外国事情を勉強しました。

正が28歳の時、同じ職場にいたアメリカ人の紹介で、いよいよアメリカに渡ることが



JR 水郡線 (JR 東日本水戸支社提供)

できました。正はアメリカでも働きながら勉強し、小学校に入学します。その後、中学校、大学と進学しました。大学を卒業した後、イギリス・ドイツ・フランス・イタリアを視察し、帰国しました。この時、正は39歳でした。アメリカでは、①神はかたよらず、②受けるよりは与えること幸なり、③善を知って行わざるは罪なり、④貧は富を作る、の4つのことを教わります。この精神は、その後の政治生活、日常生活の中に生き続けました。

帰国した正は、すぐに政治活動を始めます。国会議員になろうと二度選挙に立候補しますが、当選できません。それでも正はあきらめずに挑戦します。そして、ついに明治31年(1898)の選挙で初当選を果たします。47歳になっていました。

(子どもは国の父母である。未来を担う子どもたちを健康に育てるのは大人と国の責任である。)

こう主張する正は、青少年の育成に取り組みます。まず、明治32年(1899)に小学校の授業料を全廃させることに成功します。次に同じ年に未成年者喫煙禁止法を成立させます。続いて、翌年には未成年者飲酒禁止法を提案しますが、反対が多く、なかなか成立しませんでした。正はあきらめずに粘り強く説得し、22年の年月をかけてこの法律を成立させます。また、茨城県の北部地方の人々のために水郡線の敷設にも力を尽くします。

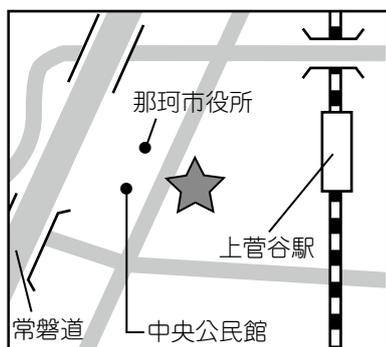
その後、大正13年(1924)の選挙で、わずかな差で落選すると、政界を引退し、残念ながら水郡線の全線開通を見ることなく、生涯を閉じることになりました。

ゆかりのスポットに行ってみよう

根本正顕彰碑

所在地 那珂市福田4515(那珂市中央公民館の向かい)

内容 根本正の業績を称えるために平成13年(2001)に建てられました。



おもな 参考文献

『郷土史にかがやく人びと』(青少年育成茨城県民会議・1971)

『根本正伝』(根本正顕彰会・2001)